



サッカーから学ぶ

人種差別との闘い

2014年3月、埼玉スタジアムで行われたJリーグ浦和レッズ対サガン鳥栖の試合で「JAPANESE ONLY」と書かれた横断幕が掲げられました。Jリーグは「差別内容と判断できる」として、浦和レッズに「無観客試合」という最も重い罰則を科しました。

海外で活躍する選手が差別に苦しんでいるように、人種や出自などを理由に差別を受け、苦しむ人々がたくさんいます。日本ではそれらの人々を守る法律がなく、差別が放置されたままになっています。今夏、開催された国連・自由権規約委員会や人種差別撤廃委員会による日本審査でも法整備の必要性が指摘されました。

FIFA（国際サッカー連盟）は人種、肌の色、性別、言語、宗教、出自などに関するあらゆる差別に対して厳しく罰することを明文化しています。日本サッカー協会やJリーグ規約等でも同様の差別禁止規定が定められています。

スタジアムで生じた差別にサッカー界が素早く毅然とした対応をとったように、私達市民も差別に毅然と対応するとともに、差別をなくす努力をしなくてはなりません。そのためサッカー界が差別と闘ってきた歴史を学び、人種差別撤廃の必要性を考えます。



【日 時】 2014年12月10日(水) 午後1時30分～4時

【講 演】 サッカー界はどのように差別と闘ってきたか
陣野俊史さん（「サッカーと人種差別」著者、文芸評論家）

【報 告】 京都朝鮮学校襲撃事件 朴貞任さん（朝鮮学校オモ二の会）

ヘイトスピーチ規制条例を求めて 文公輝さん（多民族共生人権教育センター）

【参加資料代】 3,000円（関連書籍代を含む） 学生 1,500円（同上）

【会 場】 大阪市立東成区民センター・大ホール

【主催・申込】 世界人権宣言大阪連絡会議

TEL&FAX: 06-6581-8705 E-mail: udhr@blhrii.org

*手話通訳あり

*保育あり（定員8名 原則生後6か月～未就学児
小学生以上はご相談ください。12月3日（水）
までにお申し込みください。）

【後援】 反差別国際運動日本委員会（IMADR-JC）
大阪府サッカー協会、関西サッカー協会

